



国民年金あれこれ

(その1)

論議される四つの問題点

凸「十月からいよいよ拠出制の適用事務がはじまるそうだが、新聞などによるといろいろ反対の動きもあるようで、国民年金の前途も多難というところのようだね。」

凹「いや、われわれとしてはそれほど気にはしていないよ。これだけ画期的な制度が新しく発足するのだから、ある程度の考え方の相違は当然出てくるだろうと思うし、また、制度の内容がだんだんわかつてくれば、大多数の人たちはこれをも自分たちのものとして、支持してくれるものと思つてゐるよ。」

凸「ところでその内容だがね。大体のしくみは話を聞いたり刷りものをみたりしているからおおよそわかつてゐるから、今度はひとつ、反対ののろしをあげてゐる人たちが、問題にしているような点を中心にして、話をしてくれないかね。」

凹「そうだね。問題は大きくまとめて四つほどあるんだ。第一に、保険料をかけるに年金をもらえようなく、みは考へられないかということ。第二に保険料自体の問題——たとえば、月に百円、百五十円というのは、国民の負担能力からみて高過ぎはしないか、保険料をかける期間が長過ぎはしないか、掛け捨てになる人が出るのはいけいからんじやないか、というようなことだね。」

掛金なしでやれないか？

凸「なる程。人の考えることは似たりよ

つたりだね。実は俺も同じ疑問をもつていたんだ。それでは第一の問題から説明してくれないか。この間から支給がはじまつている福祉年金は掛金なしでくれるわけだろう。あゝいうやり方をひろげてゆけないのかね。」

凹「現在の福祉年金の場合、国の財政負担は平年度で約三百億円という見込みだから、ある程度まではもつと巾をひろげることができるとも知れないね。しかしだよ、現在老人一人が、月にいくらかあれば何とか不自由を忍んでくらしでゆけるかを考へてみると、ごく常識的にいつて三千円は必要だろう。そこで、現在の福祉年金の一カ月あたり千円を三千円に引きあげることになれば、年間九百億円の財源がいるわけだね。また、福祉年金は七十才から支給することになつてゐるが、それではおそ過ぎるから六十五才からにしようということになれば、約千八百億円が必要だという計算になるんだ。」

ふえてゆく老人

凹「そうなんだ。このことは見方を

凹「第四は、ほう大な額の保険料積立金ができるというが、その運用をどうしようとしてゐるのかということ。そして最後に、四十年かけつづけて月に三千五百円相当の年金をくれるというが、そんな遠い先の金の値打ちはどうなるか分らぬじやないかということ。大体こんなことが一般に論議されてゐるようだ。」

凹「現在では、十五才から五十九才までの、生産年齢人口といわれる年齢層に属する人たちが十一人で、六十五才以上の老人一人を養つてゐる形になつてゐるが、二十五年後には七・五人で一人を養わなければならないということになるわけだね。」

凹「第三は、ほう大な額の保険料積立金ができるというが、その運用をどうしようとしてゐるのかということ。そして最後に、四十年かけつづけて月に三千五百円相当の年金をくれるというが、そんな遠い先の金の値打ちはどうなるか分らぬじやないかということ。大体こんなことが一般に論議されてゐるようだ。」

凹「オートメイションとか何とか、いろいろ生産力を高める工夫が進んでゆくから、それほど悲観したものでもないさ。しかし、とにかく年よりはふえるわけだ。年よりの数がふえれば、さきほどの千八百億円は、二十五年後には三千二百億円をこえ、四十年後には、四千七億円をこえるという計算になるよ。しかもこの額はさらに別の理由でもつともふえることになるよ。」

凹「年よりの寿命が伸びて、全人口の中で年よりの数が段々増えてゆくということだろう。」

凹「それには政府が保険料の二分の一に相当する額を一般会計から支出して、それもあわせて積み立て、これを特別会計にして、安全且つ有利に運用していつて、その運用利子もまた年金支給の財源にまわそう、というやり方なんだ。」

凹「第四は、ほう大な額の保険料積立金ができるというが、その運用をどうしようとしてゐるのかということ。そして最後に、四十年かけつづけて月に三千五百円相当の年金をくれるというが、そんな遠い先の金の値打ちはどうなるか分らぬじやないかということ。大体こんなことが一般に論議されてゐるようだ。」

凹「まああるのか、それはどうということだ。」

凹「現在の福祉年金の支給範囲を拡大せよ、という要望が非常に強いんだ。これはね。たとえば、障害年金の範囲に内科的疾患による身体障害を含めよ、とか、準母子世帯——祖母や姉が、両親に死別した子供の面倒をみているというような世帯にも母子年金を支給せよとか、所得制限がきびし過ぎるからもつと緩和せよというふうな要望なんだね。」

凸「いづれも、もつともな要望じやないか。」

凹「だからそういうことを考慮にいれていくとすれば、さきほどの三千二百億円とか、四千七百億円とかいう額はもつとふくれるわけだね。」

安定した運営が大切

凹「君は気安くいうけれども、これを、

凹「かりにできるとしてもだよ、もしもある年に大災害があつて、災害復旧にばく大な金がかゝるといふようなことが起つたり、経済界の不況で税金がおさまらない、というようなことが起れば、国の財政は年金を出す余裕がなくなつて、支給額をへらさなければならぬというよ

うなことも起りかねないよ。」

凹「それに政府が保険料の二分の一に相当する額を一般会計から支出して、それもあわせて積み立て、これを特別会計にして、安全且つ有利に運用していつて、その運用利子もまた年金支給の財源にまわそう、というやり方なんだ。」

知らぬ間に自分で保障した老後

凹「われわれは誰でも何時かは年よりに

凹「知らぬ間に自分で保障した老後、というわけか。県で募集した国民年金標語の入選作にあつたようだね。」

凹「元気がうちに自力でできるだけの準備をしておくことは、われわれの生活態度として当然のことだろう。それを、全社会的なひろがり、組織的に行なおう、というのが拠出制のねらいであり、また、さきほどの財政的な理由と共に、拠出制が採用された理由でもあるわけだね。」

凹「おみそれしました。ハハ……」

(国民年金課)

さあバスに乗りおくれぬように……

* 国民年金に加入しなければならぬ人は、20才以上50才未満で、昭和45年などの制度に入っていない人だ。

